

ハカタスジシマドジョウの概要

1. 種名 (学名)

コイ目ドジョウ科 ハカタスジシマドジョウ
(*Cobitis striata hakataensis*)

2. 環境省レッドリストカテゴリー

絶滅危惧 I A 類 (CR) (環境省 RL2020)



3. 種の特徴

成熟体長はオスで 50~60mm、メスで 60~80mm。口髭は 3 対。オス胸鰭基部には円形の骨質盤があり、胸鰭第 1 分岐軟条の上辺は細い。胸鰭~腹鰭間の筋節数は通常 13。体色は黄白色で斑紋は暗褐色。尾鰭は 3~4 列の弧状横帯となる。卵黄径は約 1.0mm。

河川の中下流域の流れが緩やかな場所に生息する。特に岸際の植生が豊富な砂泥底の場所を好む。

4. 分布域

福岡県の博多湾流入河川のみ。現在では 2 河川の限られた範囲にのみ生息が確認されている。

5. 存続を脅かす要因

河川開発、河川内湿地の減少、圃場整備に伴う水路の改変、水質汚濁、採集圧

6. その他

- ・ 2009 年にスジシマドジョウ中型種博多型として未記載種で報告され、その後 2012 年にナミスジシマドジョウの新亜種として記載された。2019 年 2 月に種の保存法に基づく国内希少野生動植物種に指定。
- ・ 現在の生息地はいずれも福岡市を中心とする都市圏と重複する二級河川であり、都市部に生息する絶滅危惧種という特徴を持つ。生息地は環境省が選定する「生物多様性の観点から重要度の高い湿地 (略称「重要湿地」)」の「福岡湾の流入河川およびため池群」に含まれる。
- ・ 生息地は河川改修や浚渫により常に人為的な環境改変がなされる地域。現在は河川管理者である福岡県が河川内の土砂の浚渫を行う際に、専門家の意見に基づき本亜種の生息に配慮した浚渫を実施している。
- ・ 成熟個体の採集状況から、繁殖期は 5 月下旬~6 月で、岸部の植生域が産卵環境であると推測されている。繁殖期のオスは、体側斑紋が明瞭な縦条模様に変化する。飼育下では 2 年以上生きるが、生活史の詳細については不明な点が多い。
- ・ 環境省と (公社) 日本動物園水族館協会との協定に基づき、2019 年度から滋賀県立琵琶湖博物館及びマリンワールド海の中道において生息域外保全を想定した飼育下繁殖に関する技術開発が実施されている。

※上記の内容はいずれも令和 3 年 12 月時点